

# 平成23年度 清野小学校 学校教育目標

## [1] 学校教育目標

### 『求めて学び 共に育つ子』

—ひとりになれる ひとつになれる子に—

#### 求める子どもの姿

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| 1 より高きを求めて、自ら学ぶ子 | (学ぶ力)     |
| 2 温かい心で、力を合わせる子  | (思いやる心)   |
| 3 粘り強く、心身を鍛える子   | (たくましい心身) |

## [2] 教育目標設定の趣旨

本校の子どもたちは、言動も穏やかで素直であり、決められたことを丁寧にしっかりとできる子どもが多い。また、保育園から共に生活し、少人数の仲間関係でもあって、上の学年の者が下の学年の面倒を見たり、一緒に遊んだりする姿を多く見かける。

学習においては、主体的な学びや、追究する過程での自己表現・自己表出の面に弱さがあり、互いに力を出し合って高め合おうとする意識はやや弱い。自分で課題を見出し、情報を交換し合って粘り強く追究し、自分らしさを表現するような、主体的に学び実践する姿勢が十分育っているとはいえない。

私たちは、これらの課題にきちんと向き合い、保護者や地域、児童と関り、会話を重ね、積極的に情報を得て実態をつかみ、子どもたちの良さを生かしながら、本校の子どもたちの持つ力をできる限り引きだし、伸ばしていく必要を感じている。

本校の実態から見えてくる課題の克服のために、「求めて学び、共に育つ子」、サブテーマ「ひとつになれる ひとりになれる」を学校教育の目標に掲げ、「求める子どもの姿」の具現化を図りたい。そのために、23年度の重点を決め出し、恵まれた清野の自然、人、歴史・文化に学ぶことを大事にしつつ、地域や家庭との連携を図りながら、教育目標の実現を目指して、教育活動を進めたい。

## [3] 本年の重点目標と基本方針

### 1 学校長の願い

#### (1) 誰もが元気に学校に来る

##### ①保護者、家庭・地域と一体となった教育活動

教育は学校だけではできない。それぞれの役割をしっかりと果たすことが、本来の連携の姿と考えられる。子どもの成長には学校と家庭、地域が協力し合うことが不可欠である。

##### ②支え合いができる集団の育成

人間は社会的な動物であるために、社会とのかかわり方を学ぶことは大事な教育目標となる。その母体は学級であり、全校の集団でもある。学級づくりや授業、集団活動の中で、個人が活かされ、支え合って向上できる関係作りを進めることが、個人や集団を活かす(生かす)エネルギーとなっていく。

##### ③健康な心身

健康と安全に気をつけ、自分で考え行動できるたくましさを培うことが、生きる力の基となる。

## (2) 生きる力の育成

上記(1)と関る。ここでは学校目標具現化のために、(1)の③と共に、個人の「学ぶ力」と「豊かな人間性」の育成を、生きる力の育成の中心にすえる。

### ①自ら学ぶ意欲と実践力の育成

「学ぶ力」は将来に繋がる基本的な力である。これを培うには、まず、興味・関心・意欲を引き出す必要がある。それは学ぶきっかけともなり、将来にわたって学ぶ力を育む大事な要素ともなる。興味や関心が引き出され、学習の進め方を教わり自らも考えて課題を追求することで、学び方が分かり、学ぶ楽しさも分かってくる。それは学ぶ意欲ともなつて次に発展する。学びの場は実践力を養う場でもある。学び方を学ぶ学習の中で、基礎知識や、見る、聞く、話す、まとめるなどの基礎学力が身につく、考える力や追及力、活用力が養われる。さらに、体験的な活動を加味することで、知恵も身につく。これらは将来の生活力の基盤となるであろう。

### ②豊かな人間性や社会性、感性を培う

豊かな人間性を身に付けるには、感性が大事な役割を果たす。豊かな感性を養うには、失敗や喜び、悲しみなどを様々な場面で体験することが必要であり、美しい自然や人との豊かな関りが大切である。感性や感覚は体験を通して培われるものあり、豊かな人間性や社会性の基盤ともなる。それは学習力を高める基盤でもある。

## (3) ふるさに学ぶ

### ①地域の人に学び、地域に学ぶ

自分達の住んでいる町や村は学習素材の宝庫である。日々の暮らし、産業、自然、歴史については全て地域で学べると言っても過言ではない。それほど学習素材は豊かである。清野の豊かな自然や人材、歴史・文化を活用することで、地域への愛着と理解を深め、子どもの視野を広めたい。

## 2 重点目標とその具現化

### 23年度の重点目標

### 「来ることが楽しみになる学校づくり」

楽しく学校に来ることは全ての基盤である。その実現を目指して、三つの具体目標を設定した

#### ①一人ひとりの学力の向上

#### ②支え合う集団づくり

#### ③自発的な集団活動と体力づくり

上記の三つの具体目標は、「学ぶ力」、「思いやる心」、「たくましい心身」という、グランドデザインの「求める子どもの姿」の三観点と対応している。各観点ごとに、重点的な具体的指導目標と主な指導内容を示し、全体で共通理解(共有化)を図り実践化する。なお指導目標と主な指導内容はグランドデザインに記し、保護者の理解を得、保護者と連携して指導ができるようにしたい。常に重点指導目標を頭におきながら、指導内容を工夫し、目標の具現化を図っていく。

### (1) 「学ぶ力」の育成

— 「興味・関心を持って自ら学び、実践する子」を目指す

①気づく力、感性、考える力を磨く授業実践。 ②基礎学力の充実と、学び方を学べる楽しい学習。 ③地域から学ぶ学習の実践化。

以上3点を重点指導目標とし、子どもの意識のつながりを大切にし、子どもと一緒に追究の筋道を考え、調査活動や体験を取り入れて、考える力や表現力と育てながら学び方を学ばせる。課題解決的な学習によって追究力を高める。

**(2) 「思いやる心」の育成** — 「助け合い教えあつて、ともに伸びる子」を目指す

①自尊感情を持ち、自分の考えを発言する。 ②互いの思いを伝え合うコミュニケーション力の向上。 ③助け合い力を合わせて問題解決に取り組む。

以上3点を重点指導目標とし、自尊感情とコミュニケーション力の向上、支え合える授業・学級作りを目指し、個人と集団が相乗し合って伸びるように指導する。

**(3) 「たくましさ」の育成** — 「心身をきたえ、生活をよりよくする子」を目指す

①あいさつや清掃が進んでできる。 ②健康や安全に関心を持ち、自分で体を鍛え、安全を心がける。 ③自分で考え、判断して行動できる。

以上3点を重点指導目標とし、自分から進んで取り組む実践力をつける。そのために行為の振り返り、どうすればよいか自分達で考え話し合う場面の確保、子どもと一緒に考え行動する教師の姿勢を大事に考える。

※これらは、グランドデザインを基にして考え実践し、それを評価し、改善して次に生かす。

### 3 地域・保護者との連携と、職員研究・研修の充実

**(1) 地域・保護者との連携**

①1の(1)に記したように、最も大事にすべき事項であるから、相互のコミュニケーションを常に図ることが必要である。相互信頼によって教育効果が上がる。

②学ぶ姿勢、聞き受け止める姿勢、発信し共に行動する姿勢が信頼につながる。

**(2) 研究の充実**

①国語科教育研究と人権同和教育研究を中心にして全員で行う。日頃の授業改善が目的である。テーマを決め出し、授業実践を通して、授業に生きる研究を深めたい。

②研究は、教え合い話し合って共に学べる研究でありたい。個人の指導研究を大事にしたい。

**(3) 研修の充実**

①研究の成果や課題を全体で学び、検討し合える場を設定したい。

②皆で地域を楽しく学ぶ研修を取りたい。

また、職員相互のコミュニケーションとホウレンソウを大事にしたい。